

## 検討委員ワークショップ実施記録

### 【日程・参加者】（以下の2回の日程に分けて同じ内容で実施）

9月28日(水) 9:30～11:30 市役所3階大会議室(南室) : 委員6名  
9月30日(金) 18:00～20:00 福社会館2階会議室 : 委員8名

### 【進行内容】

- 1) 資料の追加と訂正について  
ワークショップ資料の説明と資料2・3の訂正
- 2) これまでの議論の整理  
「検討の視点と判断材料」「これまでの議論」で説明
- 3) 今後の検討方針について  
第3回委員会で適正配置の具体案を検討するために、  
このワークショップで「検討の視点」の優先順位を決める
- 4) 検討の視点の重要度について(議論)  
(内容を以下に記載)
- 5) 検討の視点の重要度を投票  
1人2つの視点を投票、2回のワークショップで結果を合計する
- 6) その他  
今後の委員会のすすめ方などについて

### 1 配置の議論に必要な視点について

【意見1】配置の議論には、施設ができた後で変えられないもの(ハード)の視点が重要で、施設ができた後で帰られるもの(ソフト)については直接重要でない。前者は、入園者数、地域的な配置、立地条件など。後者は保育や教育の質、保育サービス、地域との連携など。

### 2 施設の老朽化について

【意見2】老朽化については、入所中の子どもの安全の面から、耐震診断や対策をとにかく速やかに進めて欲しい。

### 3 入所者数の基準について

【意見3】統廃合は当事者にとっては非常に厳しい問題なので、公平な基準を決めないと地域の人に説明できない。入所者数など他市のように基準を決めるべき。

【回答:市】統廃合の国の基準は20人だが、竹原市では以前20人を切ったこともあるが維持している。過去に、仁賀保育所や田万里保育所の例では、10人を切った時点で地域の理解も得られ、閉園・休園している。

【意見4】総合施設化すると、20人以下の小規模も認められ、規模は多様化するという話も聞く。総合施設化で基準が変わることも視野に入れなければならない。

#### 4 将来的な持続可能性について

【意見 5】園が将来的に持続できるのかが重要だと思う。地域の子どもの数の推移もみなければいけないし、地域の意向にも配慮しなければいけない。

#### 5 地域的な配置・通いやすさについて

【意見 6】各地域に就学前施設（総合施設）を確保するのは重要。

【意見 7】地域全体で子育てをすることも大切。自分が住んでいる地域に誇りを持てる子になって欲しい。その面では、集約しすぎず各地域にあることが大切なのでは。

【意見 8】「地域」の感じ方が最近広範囲になり、「地域＝竹原市」くらいに規模が大きく感じている面もあるのでは。

【意見 9】地域性をあまり考慮しすぎると、かえって難しい。

【意見 10】過去に竹原市の議会で最も議論が白熱したのは、東幼稚園、忠海東小学校、仁賀小学校の統廃合問題についてである。市民も議場に詰めかけて訴えた。それぞれの地域にとって、とても大きな問題である。

【意見 11】子どもが歩いて通える距離にあるのが望ましい。小学校のようにタクシーで送迎する方法は幼児教育にはなじまない。

【意見 12】保育所の保護者はほとんどが車で送迎。ある程度遠くても利点を感じれば送迎できるのでは。

【意見 13】幼児期の集団で一緒に小学校に上がれることも大事なこと。

【意見 14】小学校の統廃合の動向も、「その他の視点」に挙げるべき。小学校がどうなるか分からない中では、小学校区に縛られて検討するべきでないのでは。

【意見 15】旧 3 小学校区の中で、閉園や休園で 1 つの園になっている園では、地元のコミュニティとの交流を優先させて、その他の地域との交流は実質的に困難な現状もある。

【意見 16】園のある地域の隣の空白地域との交流は、予算次第でバスを出すなどして工夫すれば可能なのではないか。

【意見 17】どこも同じ基準で一律にということではなく、それぞれの地域の事情に応じて個別に検討するということが大切。そうすれば、地域の施設をみんなが利用できるようになるのでは。

#### 6 保育や教育の質について

【意見 18】保護者は建物で園を選ばない。保育内容や園に通う子どもの表情で選ぶ。

【意見 19】適正配置後も、保育や教育の質の最低ラインは保障されなければいけない。

【意見 20】質を維持するにはある程度の規模が要る。子どもの数が適正であることで、質やサービスも保たれる。

## 7 民間の積極活用について

【意見 21】市内の歴史ある民間施設では、条件の悪い中で職員も頑張っている。公立施設の配置が民業を圧迫しない視点は重要。

【質問 22】竹原市では民間施設も努力して地域外や市外から入所者を確保しているデータも出ている。他市で民営化が問題になり、反対されているのはなぜか？竹原では積極的に民間を活用すればよいのではないか？

【回答:市】公設民営も含め、保育所などの民営化は、一般的に運営が変わること自体に利用者の不安があり、抵抗が生じていると捉えている。

【意見 23】高齢者施設との連携を重視する意味では、福祉法人に民営化すればスムーズに行く面もあるのでは。エリア別に連携を図ると、今の介護支援センターの箇所数分の4施設に集約するという考え方もある。

## 8 財政的な裏付けの必要性について

【意見 24】少子化と施設の老朽化の現状の中、定員を縮小して全園を維持するのは難しいという市の見解が示されたが、どのくらいの財政的な余裕があるのか示してもらわないと、理想論で答申がなされてしまい、その後の市の現実的な行政判断とギャップが生じかねない。老朽化した何園減らさなければならないのか、1園でよいのか、2園なのか3園なのか、こちらも判断できない。

【回答:市】ある程度方向性が見えてきた時点で、それに基づいて示していきたい

【意見 25】こちらも何も無い中で議論できない。せめて何案か出して、財政的な裏付けも示してたたき台にしてほしい。例えば、全園維持と集約するパターン、公立幼稚園を総合施設化するかどうかの案など。

【意見 26】財政的な縛りについては、市として幼児教育や保育が重要だと判断すれば、最も理想的な方法でお金をかけることもできるのではないか？竹原市の幼児教育や保育に魅力があり、他市町からも利用が増えるようになれば良い。

【意見 27】定員を減らすなどして施設をできるだけなくさない選択肢はないのか。

【意見 28】限られた予算の中で、施設が多数に分散すると、予算も分散されて個別の質が下がることにつながる。

## 9 幼保一体化について

【意見 29】幼保が一体化すれば、近くの施設を選べて、地域に残せるし通いやすい。

【意見 30】幼稚園と保育所の両方の機能があれば、保護者も利用しやすい。今は、費用の面や、保育時間で選んでいる保護者が多い。

## 10 子どもの視点について

【意見 31】子どもたちが安心して満足して過ごせ、基本的な生活習慣を身に付けられることが一番大事だと考えるが、適正配置でどのようになることが子どもたちにとって良いことなのかが分からない。地域の力を借りて小規模なのが良いか、それとも大規模が良いのか、よく分からない。

## 11 少子化対策について

【意見 32】「どうやったら竹原に住み続けられるのか」を考えるのが大切。適正配置の議論が、少子化などのネガティブメッセージを強く発信してしまうのではなく、新しい施設の魅力を伝えるなどして、ポジティブメッセージも出さないといけない。